

子どもたちの楽しい一日

11月3日（金）、「子どもの祭典」が町保健福祉センター「鶴遊館」や公民館で開催され、町内の子ども約200人が参加しました。

子どもたちはチームに分かれて、輪投げやボウリングなど各会場で行われるゲームに挑戦して合計得点を競いました。じゃんけんで勝った回数だけ折った新聞紙の上に、どれだけ長く乗っていただけるかを競うゲーム「家を守れ」では、小さく折った新聞紙からはみ出ないように、メンバーをおんぶして乗るなど協力しながら点数を獲得していました。

保育園の頃から参加しているという鶴田小1年の笹森晃希君は「新しい友達もできたし、いろいろなゲームができて楽しかったです」と満足している様子でした。



あなたの地区の楽しい催しや出来事などがありましたら、役場企画観光課まちづくり班（内線262）までお知らせください。



△新聞紙やペットボトルを使った輪投げに挑戦する子どもたち

相手が本当に話したいことは何？

「他人を思いやり命を大切にすることを育む」対話集会（県青少年・男女共同参画課主催）が11月7日（火）、鶴田中学校で開催され、同校や鶴田高校の生徒、保護者ら43人が参加しました。

集会は子どもと大人の相互理解と信頼関係を深めてもらうために開催。この日は「入院中の母の代わりにカレーライスを作り作る父の気持ち」について意見を交わし、「相手が本当に話したいことは何か」を考えました。鶴田高校3年の貴田零治さんは「普段親のことを話す機会がないので、少しは親の気持ちを考えて生活したい」、同校PTAの最上裕美さんは「子どもが普段考えていることが分かって良かった」と話していました。



△生徒と保護者らがグループで意見交換した対話集会

おいしい給食に感謝を込めて

地元食材を使った学校給食に感謝の気持ちを持ってもらい、地域の農業や食材への関心を深めてもらう、「ふるさと産品の日」給食交流会が11月15日（水）、梅沢小学校で開かれました。1～3年生20人が、給食の作り方や使われる食材について学び、生産者や学校給食センターの栄養士や調理員らと給食を囲みながら交流しました。

献立には鶴田町産のダイコンやニンジン、大豆が入ったスープ、スチューベンなどが並びました。2年生の成田愛桜^{めいさ}さんは「給食に町の野菜や果物が使われていることを今日初めて知りました。これからは「ありがとう」の気持ちを持って給食を食べたいです」と話していました。



△地元の食材を使った給食を食べる生産者と児童



△当町の保健師らと懇談する三村知事（中央奥）

県知事が町の保健師と懇談

住民が健康で安心した生活を送るために、地域を支えるサービスを一体的に提供する「保健・医療・福祉包括ケアシステム」にかかる懇談会が11月22日（水）、町役場で開催されました。懇談会は県が市町村の包括ケアの現状を把握するために開催。三村申吾知事や相川町長が出席し、当町の保健師活動などについて意見交換しました。

参加した保健師は「健診・医療の未受診者の家庭訪問などの個別支援に時間を割き、住民の命を守るという保健師の職務を遂行したい」といった意見を述べました。三村知事は「青森県の住民が良く生きられる道筋をつくっていくために保健師の役割は大事なことです」と話していました。

バランスのよい運動で健康維持

11月18日（土）、健康長寿アップセミナーが鶴遊館で開催され、青森県健康・体力づくり協会の近藤文俊さんが健康で元気に生活していくために運動をすることの大切さについて実技を交えた講演を行い、参加者が理解を深めていました。

セミナーでは、イスに座った状態で膝を伸ばし、体を前に倒してつま先に手をつけるストレッチなどを参加者が実践。近藤さんは「歩くことは持久力を高める運動であるが、健康の全てを賄うことはできない」と指摘。「健康寿命を延ばすためには加齢とともに衰えてくる部位をバランスよくトレーニングし、自分の体の部位を長持ちさせていくことが大事」と話していました。



△「自分のできる運動から挑戦して」と呼び掛ける近藤さん